



University of Tsukuba

筑波大学

Tsukuba Communications

vol.6

2 嘉納治五郎生誕150周年記念特別対談

「嘉納治五郎の教えを伝える
—福田敬子先生をお迎えして—」

福田 敬子氏 柔道家 × 山口 香 准教授

8 特集 部局運営①

12 学内組織紹介 北アフリカ研究センター

14 附属学校紹介 附属大塚特別支援学校

16 TSUKUBA SPORTS 剣道部

18 TSUKUBA ART & CULTURE 歌留多(かるた)部

20 TOPICS イベント／交流／受賞

24 羽ばたくOB&OG 青山 七恵氏

26 リレーエッセイ

28 茗溪会Letter

29 紫峰会Letter

30 新聞記事掲載一覧

31 イベントカレンダー



嘉納治五郎生誕150周年記念特別対談

「嘉納治五郎の教えを伝える—福田敬子先生をお迎えして—」

福田 敬子氏 柔道家 × 山口 香 准教授

嘉納先生の教えは
いつも心から離れたことなく、
先生の教えに沿うように
心掛けてきました

山口 福田敬子先生は、講道館柔道の創始者である嘉納治五郎先生に直接師事されたと聞いております。はじめに、福田先生と嘉納先生とのご関係、柔道を始められたきっかけをお聞かせください。

福田 嘉納治五郎先生は私の祖父・福田八之助の道場で柔術を始められました。私の祖父は生前、嘉納先生に、「(道場の)後をやってくれ」と頼んだそうですが、そうならなかったのも、祖父が亡くなると、祖母は苦労して子供を育て、道場は閉めてしまいました。嘉納先生はその3年後にご自身の道場を開かれました。私の祖父は嘉納先生の最初の師匠になります。嘉納先生はその後も違う先生につかれて勉強され、三人の先生に師事されました。嘉納先生の道場50年祭の際、その三人の先生の御霊をおまつりされたのですが、祖父の御霊をまつる櫛(サカキ)に向かってまるで会話しているかのように、懐かしげに話かけられていたそうです。私の兄が「胸がいっぱいになった」と話していたのを覚えています。それから間もなくして、嘉納先生が登戸の私の家にいらした時に、初めて先生とお会いしました。嘉納先生に「あなたはリュウ(父・柳吉)さんによく似ているね」と言われ、そんなに私は父親に似ているのかと思いましたね。そして、「講道館には女子部があるから来てみたらどうですか」と誘っていただきました。その後、母と初めて講道館女子部を訪ねました。私の祖母はとても行儀に厳しかったので、足をくずしたことはなかったのですが、講道館女子部の柔道を拝見したら、足をひろげて投げたりしているので、ずいぶんたいへんな動作をするのだなと思いました(笑)。その様子を見て、母も兄も無理に習えとは言いませんでしたが、私はこの道場に入門することを決めました。22歳でした。



講道館

山口 嘉納先生と初めてお会いしたときの印象はいかがでしたか？

福田 先生はあまり背が高い方ではなく、ほっそりした方でした。私の家で、どなたかが先生のお話を伺いたいというので、講演していただいたこともありました。先生方は私が福田八之助の孫ということで、気にかけてくださったことが本当にありがたく、ずっと感謝しています。

山口 嘉納先生が柔術を習っておられたころのエピソードは聞いていますか。

福田 祖父の生徒に、祖母や私が「閻魔(えんま)の力ネさん」と呼んでいた魚河岸の長がいたのですが、嘉納先生はその人に投げられたそうです。嘉納先生は“いつかは自分が閻魔の力ネさんを投げてやろう”という気持ちが心のうちにあったんだと思います。嘉納先生は肩車らしき技を洋書から見出して、ついに閻魔の力ネさんを投げたそうです。閻魔の力ネさんはそれまで祖父の道場では強い男の生徒でした。そんな話が私の記憶にあります。

山口 嘉納先生は決して強かったわけではなかったのですね。そして非常に研究熱心だったのですね。福田先生が柔道を始められたときの印象はいかがでしたか。

福田 当時の女子部のけいこは「形」が中心でした。「技をかけられたら、逆らわずに受け身をとる。相手が前に出てきたら、その力を利用して投げる」といった感じで、乱取りは軽やかなダンスのような動きでした。三船久三先生からは「柔道は丸い」と教わりました。

山口 嘉納先生は女子に柔道をさせることに積極的だったのでしょうか。

福田 ご自身のお嬢様もおられて、はじめは護身ということで教えておられたようですが、それが段々と柔道になっていったようですね。そのころ、入門していた女性は家柄の良いお嬢様ばかりでしたので、けいこ中でも「ごめんあそばせ」「お痛かった？」などという世界でした。

山口 嘉納先生は直接、女子にもけいこをつけていたのでしょうか。

福田 すでにご高齢で、ご自身がということはなかったですね。しかし、よく講義をされました。そのとき「精力善用 自他共栄」というような教を拝聴したものです。人によっては「またおやじのあれが始まった」と言う人がいましたが、そういう人は私とは柔道の学び方が違うんだなと思っておりました。私はいつも嘉納先生の教を胸に、けいこに励んだつもりです。それが大事なことです。人間はどうして正しく生きていかなければならないか”ということを学ぶことが大切です。館長さんはそういったことを説明してくださったんだと思

います。私はいつも嘉納先生の教えを忘れたことなく、少しでもそれに近づこうと努力してきたことを誇りに思っています。世界各国を訪ね、そこで良い交流ができたのも、常に心の中に嘉納先生の教えを忘れずに学んでいたからこそだと、感謝しています。

山口 嘉納先生はお弟子さんたちに慕われていたのでしょうかね。

福田 高段者の先生で「私は、嘉納先生に会いたくて講道館に来るんですよ」と言っておられた方がいましたね。

山口 先生は東京オリンピック(1964年)で「柔の形」を乗富政子先生とご披露されていますね。そのときのお気持ちをお聞かせください。

福田 デモンストレーションしたことは記憶にありますが、そのときの気持ちについての記憶は何も残ってないですね。私の次に八段の先生がお出になり、その先生の後ろ姿を拝見したら、足が太くていらした。ああい



ふくだ けいこ
福田 敬子氏 柔道家

柔道家。女子初となる講道館女子九段。現在、アメリカ合衆国サンフランシスコ「桑港女子柔道クラブ」で指導者として現役で活躍。アメリカはもとより、カナダ、オーストラリア、フランスなど世界各国に出向き、指導を行い「世界女子柔道の母」と呼ばれる。祖父は柔術師範・福田八之助で、八之助は嘉納治五郎の柔術の師にあたる。嘉納治五郎師範から直接誘われ、22歳で講道館女子部に入門し、東京オリンピックで「柔の形」を披露した。

1913年 東京生まれ
1935年 講道館女子部に入門
1964年 東京オリンピックで「柔の形」を披露
1966年 柔道指導のために渡米
1967年 サンフランシスコに桑港女子柔道クラブを設立
1990年 勲4等瑞宝章
2006年 講道館女子九段 「Keiko Fukuda Judo Scholarship」を設立

う方が強いのかなと思いました(笑)。

山口 福田先生は緊張なさらなかったんですね。

福田 そうですね。なぜなら、プラクティス、プラクティスですから。私は1カ月も2カ月もかけて練習し、人前で演じていましたから、あまり恐れも感じませんでした。たびたび人前で演じられ、たいへん経験豊かにさせていただきました。

山口 福田先生は現在アメリカ在住ですが、渡米のきっかけは何だったのですか。

福田 オークランドに道場を持っている方の奥様が講道館に段位を取りにきていて、その方の指導をまかされました。その方から「船の切符を買っておいたからアメリカに来てくれないか」と言われ、初めて渡米しました。

山口 渡米には非常に勇気がいったのではないですか。

福田 確かにそうですね。しかし私の兄が「外国に行くことはとてもいい経験になる。行ってきたさい」と言ってくれて、アメリカに行くことにしました。嘉納先生が「これからは女子も外国に行つて柔道を広めるように」とおっしゃったことがあって、そのことがどこか頭の中にあつたのでしょうか。進んで海外に行きたいというわけではありませんでしたが、チャンスが与えられたと思いました。全てが自然だったように思います。

山口 その当時、英語はおできになったのですか。

福田 嘉納先生が「これからは女子も・・・」という話をされた後に、近くの教会で英語を教わるようになりました。読むのはできましたが、話すことは苦手でした。

山口 アメリカに行くにはどれくらいの時間がかつたのですか。

福田 船で、しかも貨物船で2週間かかりました。ピアノのお勉強にいく方と一緒にでした。オークランドには数カ月の滞在予定が、結局1年3カ月になっていました。帰国するとき、「もう私は若くないし、アメリカに来ることもないでしょう」と言うと、「とんでもない。あなたには柔道の知識があるから」と言われました。このとき、確かに私には柔道の知識があると思いました。若いころには書道や三味線、華道をしましたが、一番性に合ったのが柔道でしたから。

山口 先生は生涯



東京オリンピック(1964年)で「形」を披露

独身を通されましたが、結婚を考えたことはありませんでしたか。

福田 実は母が嘉納先生に結婚相手を世話してくれるようにお願いしていたようです。残念ながら先生はオリンピック委員会の会議からの帰国途中で急逝されてしまいましたが、生前、相手を考えてくださっていたようです。先生の長女が代わって私に結婚を打診してきましたが、お断りしました。当時、女性は結婚すれば家庭に入るのが当たり前でしたから、結婚となれば大好きな柔道を捨てなければならなかったからです。今でも柔道を選んだことに後悔はしていません。

山口 2度目の渡米について教えてください。

福田 東京オリンピック2年後の1966年に、北カリフォルニア柔道連盟から6カ月の予定で招待を受けました。53歳のときです。ミルズ大学、サンフランシスコ州立大学などで指導し、予定の滞在期間が終わっても熱心な生徒たちから「ぜひ指導を続けてほしい」と言われ、残ることを決意しました。はじめは生徒の自宅を間借りして、地下に10畳ほどの畳を敷いて道場(桑港女子柔道クラブ)をつくりました。その後、サンフランシスコ日本町にある桑港寺の鈴木敏隆住職のご厚意により、寺の一角を道場として提供してもらいました。

山口 嘉納先生が東京・下谷の永昌寺を間借りして講道館をつくったことを考えると、福田先生も同じような道を歩まれたことになりそうですね。

福田 そうですね。現在の場所に道場を構えたのは渡米から7年後の1973年です。今は足が悪く、直接指導することは難しいのですが、週2回は道場に行っています。

山口 福田先生は、アメリカはもちろん、多くの国で指導をされていますが、海外での指導で苦労されたことはありますか。

福田 特に感じたことはありません。強いて言えば言葉でしょうか。英語がもう少しできればもっと教えてあげられるのにと考えたことはあります。確かにアメリカの柔道のレベルは高いものではありませんでした。しかし、

何かを得る、何かにたどり着くことは一足飛びにはいかず、本当に時間がかかるものだと思いますし、それが指導だと考えています。アメリカの生徒たちはとても熱心に学ぼうとする姿勢がありました



ソウルオリンピック(1988年)での試合

ので、教えるにも自然と力が入りました。

山口 女性の指導者ということで軽く見られたことはありませんでしたか。

福田 それもありません。カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピンなど様々な国に行きましたが、どの国でも熱心な生徒たちに歓迎されました。80歳を過ぎてフランスに指導に行ったときには、周囲は最初「80歳の婆さんに何ができる」と思っていたようですが、実際に指導をはじめるとそんなことを言う人もいなくなりました。80歳でも結構できるものですよ(笑)。

山口 先生には、いつも筆で書かれるモットーがあると伺いました。

福田 柔道を習う、技を習う一方で、自分の心の修行をすることはとても大切です。私は自分のモットーとして「つよく やさしく うつくしく」という言葉を(この修行の中で)見出しました。「つよく」は体も強く、精神も強く



やまぐち かおり

山口 香准教授

元女子柔道選手で現在、全日本柔道連盟女子強化委員。全日本柔道連盟段位は六段。浦沢直樹原作漫画『YAWARA!』の主人公のモデルである。ソウルオリンピック女子柔道銅メダル(当時は公開競技)、世界選手権金メダルなど田村亮子選手(現・谷亮子)が登場するまでの日本女子柔道界軽量級の黎明期を引っ張ってきた。「女三四郎」と呼ばれる。主な得意技は小内刈。

1978年～1987年 全日本体重別選手権10連覇(第1・2回:50kg級、第3～10回:52kg級)
1980年(第1回)、1982年(第2回)、1986年(第4回)、1987年(第5回):世界選手権銀メダル
1984年 第3回世界選手権金メダル
1988年 ソウルオリンピック銅メダル
2008年 筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授



子どもたちを指導する山口香准教授

という強さが大事だということ。「やさしく」はどこから出てきたかと申しますと、「柔の形」の「柔」の深さです。いつも考えてみるのですが、柔道の「柔」は「柔の形」によく現れているのです。「柔」は弱くみえて弱くない、強くやさしいんですね。そんなことから「やさしく」という言葉を二番目に入れました。三番目の「うつくしく」は、誰も美しいものが好きですし、女性は外見よりも、心の美しさが特に大切だと思います。心を美しくと常に努力しています。「つよく やさしく うつくしく」。いい言葉だと思っています。

山口 先生は「柔の形」の研究に力を尽くされたと聞いています。

福田 「柔の形」はやはり柔術から生まれたことがわかりました。柔の形の「柔の理合い」についてはどの先生も突っ込んで話をしてくれませんが、わたしはこのことを芯の芯まで研究して理解することができました。「柔の形」というのは相手の力に決して反抗しないこと。それがなかなかできないのですよね。「柔の形」を一生かけてやり、やっと本当の真髓がわかって、私は幸せに思っています。

山口 最近の柔道はご覧になりますか。

福田 はい。北京オリンピックも見ました。この大会を見て、柔道界も考えなければいけないと感じました。外

国の選手に柔道ではないような動きが見られましたでしょう？あれではこれから先の柔道が心配です。講道館柔道が捨て去られるようになったら大変です。みんなで力を合わせて講道館の良い柔道を守っていかなければなりません。講道館の上に立つ人は柔道の先駆者として十分に自分の意見を発表し、力を持たなければいけないと思います。変えるにしても嘉納先生の考えておられた、身体のためにもなる、良い柔道にする必要があります。その責任を果たすことが今の柔道界には必要だと思います。

山口 女子が試合をすることについてはどう思われますか。

福田 よろしいのではないかと思います。初めて女子の世界選手権(1980年)がニューヨークで開かれたとき、私も見に行きました。山口さんが表彰台(2位)に上がったことが、とてもうれしかったのを覚えています。最近の試合を見ても、女子は良い柔道をとっていると思いますよ。

山口 先生は96歳でおられるんですよね。肌がつやつやで、とてもお元気ですが、その秘訣(ひけつ)を教えてくださいませんか。

福田 特別なことはしていません。若いころに腰を痛め、今でも苦労しています。ただ、私を慕ってくれる生徒

がいますから、彼女たちへの責任があります。そんな気持ちで元気でいられることにつながっているのかもしれない。

山口 福田先生にとっての柔道とは何でしょうか。

福田 心の修行です。人間としての修行、これが大事なことだと思っております。柔道をしているときも、そうでないときも、嘉納先生の教えが心から離れたことはありません。先生の教えに沿うように自分でも心掛けてきま

した。そんな自分の人生をありがたく思っています。

山口 嘉納先生がもし生きておられたら、福田先生にどんな声をかけられるでしょうか。

福田 「よくやったね」と言って下さるでしょう(笑)。

山口 日本にも先生を慕っている弟子が大勢いることを忘れないでください。お体を大切にこれからもご指導をよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

[編集後記]

福田先生とお会いするのは3回目だった。私たち女性柔道家にとっては神様のような存在の先生であるが、そんなことを感じさせない優しさがある。おそらくこの「やさしさ」は長い間厳しい修行をされた中から生まれたものなのだろう。競技に生きてきたわたしたちは、ややもすると柔道修行という観点を忘れ、勝ち負けだけに頓着しすぎてしまう感がある。そんな中で福田敬子先生の一本筋の通った生き方は、柔道家の手本であり誇りでもある。そして、ここまで柔道を貫く覚悟を与えた嘉納先生の影響力の凄さにも驚かされる。福田先生のお話で印象に残ったのは「海外での指導も違いはない」と言い切られたことだ。柔道は国際化の波に翻弄(ほんろう)されている現在、この言葉は何を意味するのだろうか。おそらく、柔道の本質を指導するのに、国籍は関係ないという意味ではないかと思う。わたしたちは柔道着の色や細かいルールなど、ひとつひとつの現象に目を奪われることなく、柔道の本質、守るべきもの、受け継ぐべきものは何かを考えなければならない。このことを先生は示唆していたのだと思う。

今回の帰国にはアメリカから先生の弟子8人が同行された。彼女たちは高齢の先生の日常にも気を配り、道場への送迎も行っている。先生に対する彼女たちの献身的な態度をみるにつけ、先生が指導者としていかに尊敬されているかがわかる。

96歳の高齢であるがまだまだお元気で、「今回、日本に来たことで私にもまだ役割があると感じました」とおっしゃられて帰国の途につかれた。お付きの人の話によると、今回新しく取得したパスポートは10年間有効のものだと言う。福田先生の柔道修行の旅は、まだまだ続きそうだ。

(山口 香)

か の う じ ご ろ う 嘉納治五郎 1860~1938



高等師範の校長を23年間勤めた、明治から昭和にかけての教育者であり、柔道家。講道館柔道の創設者でもあり、柔道、スポーツの発展に寄与し、日本のオリンピック初参加に尽力するなど、日本におけるスポーツの道を開き、「柔道の父」、「日本の体育の父」と呼ばれた。



1860年 神戸生まれ
1881年 東京大学文学部卒業
1882年 講道館柔道を創設
1893年~1920年 高等師範学校校長、東京高等師範学校校長
1909年 IOC委員に就任
1912年 第5回オリンピック(ストックホルム)に団長として参加
1938年 IOC総会の帰途、船上にて逝去



特集：部局運営①

教育研究の質の向上に向けた部局の取り組み

～部局運営懇談会より～

国立大学法人としての最初の中期目標期間がまもなく終わり、次年度から第二期中期目標期間が始まります。今後、これまでの実績の上にさらなる成果を実現していくためには、全学として中期目標・計画を策定するだけでなく、それを踏まえつつ、各部局が大学運営のユニットとして、主体的に目標・計画を立案し、実行していくことが重要です。また、各部局における優れた取り組みを学内で共有することも大切です。このような観点から、各部局と執行部との対話を「部局運営懇談会」として実施することとなり、昨年11月以降、博士課程研究科を単位として順次開催されています。懇談会では、部局の重点目標・課題について、これまでの実績も踏まえて率直な意見交換が行われています。本誌では、今号と次号にわたって、懇談会の内容から各部局の重点目標やグッドプラクティスを中心にとりあげて紹介します。



数理工質科学研究科の現状と展望

本研究科は、数学、物理学、化学、物理工学、物質工学、材料工学に関する教育と研究に携わっています。その理念は、①知の追求、発見、蓄積とその体系化に挑戦し、そこから生まれる学術成果と有益なテクノロジーを社会に発信すること、そして、②そのような過程で若い科学者、技術者を育成し、次世代を担う人材として社会に送り出すことです。

基本方針：

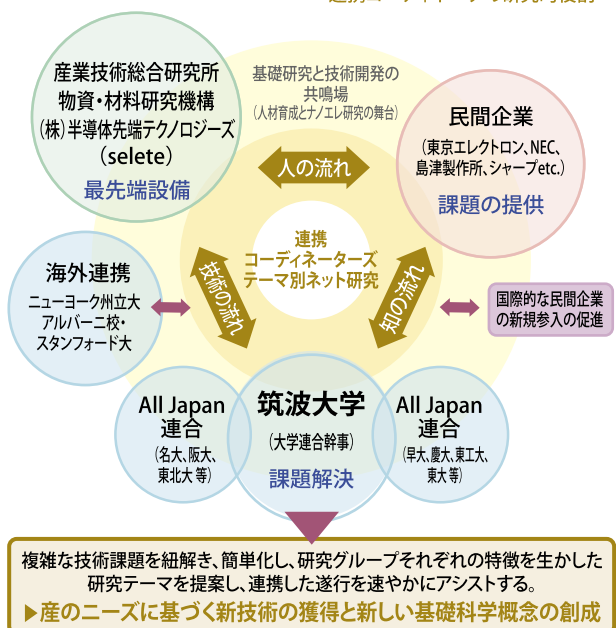
1. 縦系として自然科学コア領域および応用科学コア領域を専攻単位で一層高度化し、横系として専攻横断的な新しい学際領域・理工融合領域の教育研究プログラムを充実させます。
2. それにより、次の時代を切り開く先端的研究者並びに高度専門技術者の人材育成を行います。
3. つくば研究学園地区における産官学連携教育研究システムの構築を検討し、また国内外の教育研究機関との連携の拡充を進めます。

重点目標：地の利を生かした教育研究システム

つくばの地の利を生かして、優れた研究機関(独立行政法人研究所と企業研究所)と協力したつくば連携教育研究システムの構築を進めています。具体的には、①つくばにある豊富な人材と多くの優れた研究機関の集積効果、それらの相乗効果を引き出し、②研究と人材育成のための“異文化間の共鳴場”を作りあげるための多様な努力をしています。

産学独協働による世界的教育研究システム構築

～連携コーディネータの研究的役割～



理工学群数学類・物理学類・化学類・応用理工学類の現状と展望

理工学群は理学分野3学類(数学、物理、化学)と工学分野3学類(応用理工、工学システム、社会工学)をあわせた6学類から構成されており、入学定員520人の学内最大の組織です。この6学類のうち、工学システムと社会工学を除く4学類が大学院数理工質科学研究科に対応しています。

意思疎通を図った運営：

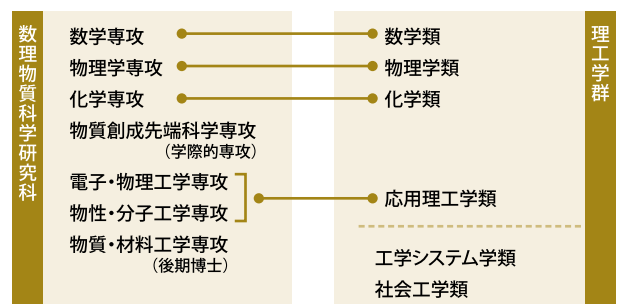
本学群は理学と工学でキャンパスが離れており、支援室のサポートも2箇所に分かれていることから、一体感の醸成に腐心しています。そのため正副学群長と6学類長による理工学群運営委員会を毎月開催し、意思疎通を図っています。またFD活動、広報活動を含む学群の直面する諸課題に対する施策等を企画・立案するため、総合政策室を設置し、毎月会合を開いています。

社会への発信：

理科離れ、工学離れ、といわれることについて、学群説明会、体験授業、出前授業等の積極的な広報活動、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール事業(SSH)、附属高校との高大連携事業等の効果により、現在はそれほど憂慮していません。入試の志願倍率も、学群再編直後一時的な落ち込みの見られた学類もありましたが、20年度、21年度にかけて各学類とも上昇傾向にあります。入試制度としては理系3学類で21年度から国際科学オリンピック特別入試を実施しています。

課題と目標：

法人化以後外部資金獲得等の経営努力とともに教育内容の充実を図っていますが、その一方、教員数の大幅な低下による日常の講義、演習、入試業務等への影響や実験室、実験装置の老朽化等の問題も生じています。人的余裕が乏しいため若手教員の外国での長期研修も減少しています。数学・物理・化学・応用理工は基礎科学としてきわめて重要であり、またそれ自体収益性があるとは限らないので、次期中期目標期間では行き過ぎた経営の効率化を是正し、大学本来の使命に立ち戻るべくさらに努力を重ねたいと思います。



博士後期課程学生への経済的支援策

本研究科の博士後期課程では、平成21年度の入学者から、研究科独自の経済的支援を実施しています。

この制度は、全学的に実施している授業料等学生納付金の減免措置や、RA(リサーチ・アシスタント)としての雇用に加え、研究科独自にRAとして雇用を行い、年間の授業料等学生納付金相当額の半額以上について、経済的に支援するものです。

大学院の学生に対する経済的支援の在り方については、現在、中央教育審議会等においても検討されているところですが、本研究科では、いち早くこれを実施に移し、学生が経済的な不安を抱くことなく、教育・研究に打ち込むための環境を整備したところであり、今後一層、レベルの高い教育研究活動が展開されることが期待されることです。

なお、本年度(9月現在)において、本制度により15人の学生を研究科独自にRAとして雇用している状況にあり、本制度の資格要件を満たさない者を除けば、希望者全員に対して、年間の授業料等学生納付金相当額の半額以上を支援しています。

博士後期課程への内部進学制度

本研究科では、博士前期課程に在学する優れた人材を、博士後期課程において確保し、研究者として育成することを目的として、内部進学制度を実施します。

この制度は、本研究科の博士前期課程に在学し、特に優れた研究能力を有する学生であって、「システム」、「情報」、「社会」の融合を目指した新しい科学・工学の学際分野に興味を持ち、将来、当該分野を担う研究者として活躍できると認められる者を博士後期課程への内部進学者として選抜し、博士前期課程から博士後期課程への連続した研究活動を推進するとともに、一貫的な教育を実施して、卓越した研究能力を持つ研究者を育成することを目指しています。

この制度の趣旨を反映させるため、内部進学希望者には、その出願資格として、博士前期課程において優れた学業成績を修めていること、及び日本学術振興会特別研究員(DC1)に応募済みであることを条件としております。

なお、本制度による合格者が、仮にDC1に採用されなかった場合にあっても、研究活動に集中して取り組むことのできるよう、研究科独自の施策として、博士後期課程における年間の授業料等学生納付金相当額を最大3年間にわたって経済的に支援することとしています。

また、本制度は平成23年4月の入学者から適用させることとして、当該入学試験を平成22年7月に実施する予定です。

理工学群に関する基礎データの整備

学群・学類の教育活動の指標として、学生の身分異動等の各種データが存在しますが、体系的なものとなっていないのが現状です。

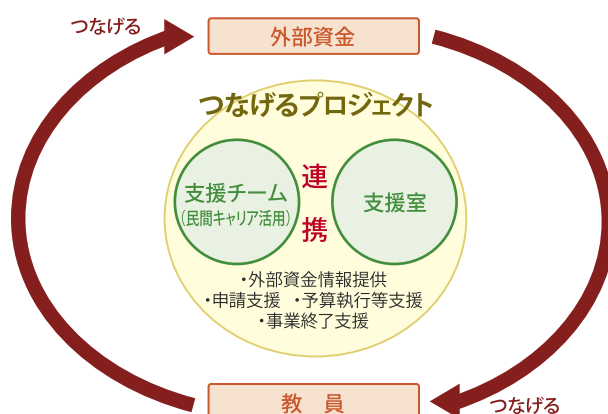
理工学群においては、同学群総合政策室を中心として、学群・学類教育に係る基礎データの集積を行い、年度ごとの評価に加え、経年評価を行い、学群・学類教育の現状把握、問題解決、施策の策定に活用することとしています。

本基礎データは、入学、休学、退学、卒業等の学生の身分異動をはじめとし、入学料・授業料免除、奨学金の採用、表彰、懲戒、事件・事故などの学生の生活指導上の事項も含めるとともに、高大連携活動の実績などについても蓄積を行うこととしており、学群・学類における教育活動を体系的に捉え、FDをはじめとした教育の実質化に向けた活動に資することができるものとなっています。

システム情報工学研究教育戦略プロジェクト

本研究科では、本年度の補正予算により、本学提案の「国際拠点形成に向けた教育研究支援体制強化事業」が採択され、その事業費の一部が本研究科に措置されたことに伴い、このたび、「つなげるプロジェクト」と銘打った、外部資金の獲得等を支援するためのチームを、システム情報工学等支援室内に立ち上げました。

本支援チームは、具体的には、外部資金に関する公募要領などの詳細な情報や、採択されている他大学での取組状況、さらには申請書作成のためのポイントなどを提供するシステムを構築するとともに、外部資金獲得後の予算執行計画の立案支援・執行支援、報告書の作成支援、委託額の確定検査(監査)のフォローアップなどを行うためのシステムの構築を目的として設置したものであり、現在、本支援チームでは各種外部資金に関する情報の収集作業を行うとともに関係教員に対し、「支援の在り方」に関するヒヤリング調査等を実施するため、その準備を進めているところです。



【『つなげるプロジェクト』イメージ図】

部局運営の円滑・効率化を重点的に推進

研究科の運営に関して特に重点的に取り組んでいるのは、情報の効率的な流通です。打合せ(毎週開催)や教員会議(毎月開催)に加えて、各種文書へのアクセスを容易にするウェブ上の文書アーカイブや、教員メーリングリストの活用により、その実現を図っています。

また、少人数の委員会構成や専決事項の規則化により、意思決定を少人数で行えるようにして一般教員の業務負担軽減を図りつつ、研究科長と教員の個別対話の実施や各種委員会の長による引き継ぎの徹底に取り組むなど、教育研究活動を円滑に実施できる運営を行っています。

特色ある研究の展開と効果的な資源配分

本研究科は特徴的な研究分野を担っています。科学研究費補助金を例にとると、「情報図書館学・人文社会情報学」の採択課題数は

KAKENデータベース調査 情報図書館学(1008-A)・人文社会情報学(1008-B)			
2007-2009年度の採択課題件数(基盤、若手、萌芽)	193課題		
研究代表者の所属機関数	79機関		
採択数が上位の5機関			
東京大学	22課題(19名)	史料編纂所他6部局および不明に分散。課題名から人文社会情報学Bが多いと判断。	
筑波大学	19課題(18名)	図書館情報メディア研究科 18件 課題名から図書館情報学A中心と判断	
国立情報学研究所	13課題(10名)	課題名からA、Bの両方にまたがると判断	
慶應義塾大学	11課題(8名)	文学部(図書館・情報学科) 9件 課題名から図書館情報学A中心	
名古屋大学	9課題(7名)	部局は分散。 課題名からA、Bにまたがると判断	

情報図書館学・人文社会情報学で見た国内の状況

は国内トップクラスであり、情報学を中心としつつ、人文学、社会科学から数物系科学、工学まで幅広い採択実績を有しています。

知的コミュニティ基盤研究センターは、研究科の研究フロンティアを担うとともに、「アジア太平洋地域における図書館情報学の教育と実践に関する国際会議」の開催や「Consortium of information Schools in Asia-Pacific」の設立など、国際連携活動、コミュニティ連携の中核としての役割を果たしています。

研究費の配分に関しては、限られた資源を効果的に活用していくために、前年実績や間接経費、大型外部資金の獲得、萌芽的研究の立ち上げ、海外との共同研究等を考慮した重点配分を進めるとともに、基盤研究費等を来年度に繰り越せる柔軟な仕組みを採用しています。

社会人にも開かれた大学院教育の展開

研究科では、春日地区と東京サテライト(大塚地区)での昼夜開講制の授業を行っており、テレビ会議システムによる同時開講も実施し、春日地区の一般学生と東京サテライトの社会人学生が同時に授業を受け、互いに議論できる環境を構築しています。併せて、社会人大学院生のための東京サテライトの運用などサポートの充実も図っています。大学院生への支援策としては、学会発表・論文発表に対する資金援助や図書館情報学海外研修助成を実施しています。

また、図書館流通センター図書館経営寄附講座を設置し、公共サービス論及び公共経営論の専門家2人(総務省及び文部科

学省)を置き、これを核として時代に即応した図書館経営に関する最新の実際の知識を学ぶ機会の提供を目的とした図書館経営管理コースを開設しており、平成18年度から25人が修了認定を受けています。

学類教育の質の向上・学生サポートの充実に向けた多様な工夫

情報メディア創成学類では、学生の個性・自主性教育を強力に推進しています。このため、カリキュラムでは演習実験を重視しており、本年度からは、先端ITベンチャー企業との連携によるET(組み込み技術)技術者養成プログラム「組み込み技術キャンパスOJT」を情報科学類と共同で開講しています。独立行政法人情報処理推進機構の未踏IT人材発掘・育成事業への挑戦も奨励しており、採択者も出ています(本体1人、コース4人)。また、学類誌「MAST」の学生自主企画出版の支援も行っています。



キャンパスOJT

本学類は一期生の卒業を来年度に控えており、多様な企業へのPRや進学指導会の実施など就職・進学に向けた諸準備や、同窓会の組織化を進めています。一期生卒業時を目途に、現行カリキュラムの総点検を行うこととしています。

知識情報・図書館学類では、「教育の質の保証」の一環としてGPAを導入し、学生が自らの学習状況を把握できるようにしています。また、初年次教育の充実をめざして、学習リソースと上級生による学習支援を提供する「ラーニング・コモンズ」の設置や、新入生オリエンテーションの中で有力な就職先を含めた見学研修を実施し、学習意欲を高める工夫をしています。3年次全員を対象としたTOEIC-IPテスト(授業の一環として学類経費で実施)、英語による専門科目「レファレンス・コミュニケーション」や「国際インターンシップ」の新設など、国際化に向けた取り組みも進めています。



ラーニング・コモンズ

本学類の全教員が参加するFD研修会をほぼ毎月実施し、学生による授業評価、卒業生アンケート、入試結果等の分析を通じて、カリキュラム改善に取り

組んでいます。平成20年度は、授業評価アンケートの全面的な見直しとウェブによる結果の公開、大学図書館と企業対象の質問紙方式によるステークホルダー調査を実施しました。

情報分野の特色の一層の伸長に向けて

本学の情報分野は他大学にない強さを持っています。平成19年度の学群改組における情報学群の編成はひとつの転機であり、今後も本学における情報分野の特色の一層の伸長に貢献していくことが重要と考えています。

北アフリカ研究センター

北アフリカ研究センター（ARENA）は、2004年に大学院生命環境科学研究科の関連センターとして発足し、2007年に本学の全学研究センターとなりました。地中海からサハラ沙漠にいたるエジプト、リビア、チュニジア、アルジェリア、モロッコ、モーリタニアを対象として、北アフリカ地域が有するユニークで多様な可能性と、わが国の先端的科学技術を融合させた、多分野連携の総合的研究を推進しています。

現在、同センターは、中嶋光敏センター長、磯田博子副センター長ほか教員9人、研究員3人、事務4人で構成されています。



共同研究棟A玄関にある北アフリカ研究センターの看板。本センターは総合研究棟Aの3階を中心に実験室、研究室、事務室を構えている。



左写真：エジプトの宗教的マイノリティの研究調査（岩崎真紀研究員：右から二人目）

研究分野

北アフリカは、人文社会的には、アフリカ、欧州、中東の「文明の交差点」として、イスラーム社会や伝統と近代化の葛藤と相互補完などの文化・文明・人々のダイナミズムを研究できるフィールドといえます。自然科学的には、沙漠化、地球温暖化、生物多様性の減少など、現在から将来の地球環境の課題に対する解決法を先駆的に研究できるフィールドといえます。また、ゴンドワナ大陸における唯一の全北植物区といった特徴をもっています。



北アフリカ研究センターでは現地の研究者との共同で毎年数回現地調査を行っている。



オリーブは北アフリカの地中海沿岸地域を中心に広く栽培され、良質のオリーブ油が作られる。



公開講座でチュニジアのオリーブ油、ハリスを楽しむ参加者風景（中央：講師の磯田教授と森尾講師）

この地域は地中海からサハラ沙漠までの距離が短く、乾燥傾向が高いため、異なる乾燥環境へのアクセスが容易であり、多様でユニークな生物資源を有することなどの特性から、アフリカ全土への学術研究展開のハブとなります。このような背景から、ARENAは次の4分野およびそれぞれが連携融合した研究を展開しています。

- ① バイオサイエンス分野（有用生物資源の機能性解析など）
- ② 乾燥地環境分野（先駆的な沙漠化防止技術の開発など）
- ③ 人文社会分野（文化的・宗教的ダイナミズムなど）
- ④ IT・マネジメント分野（情報空間創出とアーカイブ化や地域発展のための経済モデルなど）

現在の中心的課題は「北アフリカの民間伝承や現代イスラームに受容される食薬資源利用研究」です。同課題は、多分野連携研究および文理融合の新しいタイプの地域総合研究と位置づけることができます。

国際連携と国内連携

ARENAは、北アフリカ地域と生物多様性条約に則った包括協定を締結し、当該地域の生物資源を利用できる国内唯一の拠点です。

ARENAは、2006年に発足した本学初の海外拠点である北アフリカ・地中海連携センター（CANMRE、本部チュニジア共和国チュニス市）と密接に連携しています。さらに2009年11月には文科省国際化拠点整備事業（グローバル30）の開始に伴い、海外大学共同利用事務所（BUTUJ）がCANMRE内に開設されました。チュニジアのほか、モロッ

スで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



右上写真：内陸部の乾燥地のオアシスで多く栽培されているナツメヤシ。 右下写真：海外大学共同利用事務所BUTUJ開所式（左から、塩尻副学長、安部教授、山田学長、磯田教授、HARRABI教授、森尾講師、八幡氏）

コ、アルジェリア、エジプトの大学・研究機関と連携し、現地サテライトラボの開設準備を進めています。

学内の6研究科に所属する多数の教員、他大学等の教員をあわせて、200人を超える国内外の研究者がARENA共同研究員や客員研究員となり、北アフリカ研究ネットワークを形成しています。

ARENAは、北アフリカ諸国との国際学術会議等の運営にも積極的に関与しており、特に毎年チュニジアで開催されるチュニジア-日本文化・科学・技術学術会議（TJASSST）の日本側事務局を担当しています。TJASSSTは2009年11月には10回を数え、日本国内からは本学を含む30もの大学・機関から約100人の参加があり、バイオサイエンス、環境・エネルギー科学、材料科学、情報科学、数学、マネジメント科学、人文社会科学の多岐の分野にわたって活発な議論がなされました。そのほか国内においてはARENA・CANMRE特別セミナー、毎月の定例セミナー、年1回の公開講座など、さまざまな会議、セミナー等を主催しています。

■外部資金による研究

ARENAが現在推進している、大型外部資金による主な研究事業は、以下の通りです。

- ・文部科学省 特別教育研究経費「研究推進事業」平成20年度～平成24年度「北アフリカ学」創出の基盤構築—多分野融合型新教育研究システムの確立—
- ・地球規模課題対応国際協力事業「乾燥地生物資源の機能解析と有効利用」

■更なる発展へ

ARENAは文理4分野を基軸とした多分野連携による多角的北アフリカ研究の推進、高度の専門性を持ち国際社会の現場で活躍できる複眼的思考・実践力を持った人材の育成、北アフリカから世界へ展開する教育研究拠点構築を進めています。



モンペリエ大学薬学部と北アフリカ研究センターとの協定締結（前列左：薬学部長、右：中嶋センター長、後列右：磯田教授）



第10回チュニジア-日本文化・科学・技術学術会議（TJASSST）（発表者：-ARENA- 柏木助教）

北アフリカ研究センターwebサイト
<http://www.arena.tsukuba.ac.jp/index.html>

「一人ひとりに応じた教育を実践する」 筑波大学附属大塚特別



知的障害教育100年の歴史

本校は、1908年に教育機関初めての補助学級として、東京高等師範学校附属小学校の第三部に補助学級の名を冠し、設けられました。

1960年には、附属小学校と附属中学校の特殊学級を母体に養護学校として認可されました。また、1964年には現在の春日地区（文京区）に移転し、独立した特別支援学校として50年の歴史を刻んでいます。

幼稚部・小学部・中学部・高等部の4学部と特別支援教育のセンター的機能を担う支援部からなり、現在の幼児・児童・生徒（3～18歳）は76人、教員37人、事務職員9人です。

生活教育を中心とした教育の特色

本校では、国語・算数・理科・社会といった教科教育スタイルの授業ではなく、子ども自身の生活に密着した「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」等と呼ばれる、教科等を合わせた指導形態での学習が展開されます。教育内容をまとめた「経験内容表」とモデルの指導計画集「教育課程（幼小編）（中高編）」は、こうした実

践の集大成です。これからも、授業研究を軸としながら、知的障害児の教育課程・教育内容・教育方法・教材教具の研究を進め、全国に向けて発信します。

センター的機能を担う「支援部」

平成15年度から地域の特別支援教育を推進するセンター的機能（外部支援）を担う部署として「支援部」を設置し、3人の教員を配置しました。研究の一環として、大学附属の特別支援学校の専門性を生かし、文京区内の保育園や幼稚園、小中学校に在籍する特別な教育ニーズを有する子どもの教育を支援しています。また、年間を通じて地域の学校・園から依頼のあった子どもの教育相談を実施しています。

「幼稚部」の機能を生かした早期の教育支援

知的障害の特別支援学校として全国に数少ない幼稚部を1963年から設置しています。現在は、幼稚園・保育園との併用の在籍幼児も多く、「個別の教育支援計画」の共有や学校と保育園・幼稚園や地域の療育施設等との連携した支援研究に取り組んでいます。

母親支援として、教育相談や講演会、「にこにこ広場」（園庭開放）を実施しています。支援部と連携し、地域の就学相談・就学支援に協力をしています。

高等部を卒業して就職する生徒たち

高等部卒業後は全員が社会人となります。産業現場等での実習を通じて、就職したり、家庭から地域の作業所に通う生活となります。平成20年度の卒業生進路は、一般就労5人、通所作業所等2人でした。進路指導主事（専任）の教員1人が、担任団と保護者と連携調整し、職場や実習先の開拓に汗を流す状況は、今も昔も変わりありません。

	月	火	水	木	金
5:30～7:00	学芸・朝の会	学芸・朝の会	学芸・朝の会	学芸・朝の会	学芸・朝の会
7:00～7:30	サーキット				
7:30～8:00	1 学芸・朝の会	2 作業	3 作業	4 学芸・朝の会	5 学芸・朝の会
8:00～8:30	2 生活	3 作業	4 生活	5 生活	6 通所/家庭
8:30～9:00	3 生活	4 作業	5 生活	6 通所/家庭	7 通所/家庭
9:00～9:30	給食				
9:30～10:00	4 学芸・朝の会	5 音楽	6 生活	7 体育	8 学芸・朝の会
10:00～10:30	そらじ				
10:30～11:00	学芸・朝の会	学芸・朝の会	学芸・朝の会	学芸・朝の会	学芸・朝の会
下校	2:00	3:00	3:00	3:00	2:00

もそれぞれの分野で我が国の教育をリードしています。
あり、地域のセンター的機能も有する筑波大学附属大塚特別支援学校を紹介します。

支援学校



◆「作業学習」—中・高等部の教育形態の特色—

中・高等部の生徒たちが製品づくりの作業をしながら、各教科の内容や生活技能・態度習慣の習得をめざし、「作業学習」に取り組むのは、日本の知的障害教育の特色です。

本校には、窯業（焼き物）、木工、スリッパ制作、印刷総合、染め物の作業があり、中・高等部の生徒が合同の縦割り編成で作業に取り組みます。バザーや学園祭で製品を販売することも大切な学習です。さらに、産業現場等における実習につなげます。



◆「青年学級」に集まる卒業生

卒業生が安心して集い憩う場として、1967年に「青年学級」を開設しました。開設時は、教員と保護者が協力して、学級を運営してきましたが、現在は卒業生や保護者を母体とする「(社団法人)障害者の自立を図る桐親会」が運営し、教職員が協力しながら会を重ねています。茶道・生け花・音楽・運動などのクラブ活動と月ごとのイベント活動が行なわれ、7月には一泊旅行も実施されます。1月には高等部3年生も参加し成人式を行います。



昨年度の成人式

第6回 剣道部

正々堂々と剣の道を歩む



ドン、ドン、ドン・・・、武道館2階の剣道場から、けいこ開始合図の和太鼓が響く。太鼓を打つのは遅野井直樹主将（体専3年）。代々、主将の役目だ。胴着姿で整列した部員たちは太鼓の一音一音で精神統一し、道場正面に掲げられている部訓「修文錬武」に一礼、けいこを開始する。たちまち、道場内には気合いの声とぶつかり合う竹刀の音、磨かれた板張りの床を素足で踏み込む気迫あふれる音が響きわたる。

剣道部（香田郡秀顧問）は前身の東京高等師範学校からの長い歴史と伝統を誇る。多くのOBが指導者として全国で活躍している。毎年1月に同道場で行われる寒げいこには、部員のほか全国から大勢のOBが集まる。

現在の部員は男子32人、女子17人。本年度は関東大会（個人戦）で男女ともに優勝、女子は全日本大会（団体戦）連覇など、好成績を残した。練習は日曜を除く毎日。切磋琢磨し、気力と体力の鍛錬が続く。

同部の剣道は、基本に忠実で美しく、正々堂々と相手と対峙（たいじ）する姿勢の“正剣”。教士八段の香田顧問は「自分に負けない気持ちが必要」と対峙する前に、自分自身と戦うとも話す。

女子には連覇の数を伸ばす重責がかかる。目標は常に

「日本一」。女子責任者の原口理恵子さん（体専3年）、副責任者・福富静香さん（同）、主務・元嶋菜美香さん（同）は異口同音にキッパリ。有田祐二女子監督は「勝っておごらず、負けて悔やまず。広く深く、日本の武道を志す自覚を持ち、真つすぐに進んでほしい」と気構えを説く。前責任者の鈴木愛梨さん（同4年）は「プレッシャーを感じずに、いつでも挑戦者のつもりで自信を持って向かってほしい」と後輩たちにエールを送る。

遅野井主将は「打倒・国士舘大で日本一を目指す」と全日本での雪辱を誓う。「全国の手本となる剣道が筑波大学剣道部だと思っている。恥ずかしくないように、けいこに励む」と主務の山崎洵さん（同3年）は言葉に力を込めた。

“同門対決”となった関東学生剣道選手権の決勝。寺島光紀前副主将（同4年）と剣を交えた西村英久副主将（同3年）は「先輩に胸を借りるつもりで向かっていきました」。優勝は成らなかったが、得たものは大きかったと振り返った。自分を磨き、後の全日本大会では前年準優勝の雪辱を果たし、学生日本一を勝ち取った。松澤孝憲前主将（体専4年）は「心身を鍛え、正しく強い筑波の剣道で優勝をつかんでほしい」と後輩たちの躍進に期待する。

鍋山隆弘男子監督は「学業と両立した上でどれだけ剣



松澤孝憲 前主将



（左から）山崎洵、西村英久、遅野井直樹さん



鈴木愛梨さん



（左から）元嶋菜美香、原口理恵子、福富静香さん



道に向かう時間が確保できるか。剣の道を貫くには、どれだけ自分を追い込めるかも大切。技能だけでなく精神面も磨く」と指導に熱を注ぐ。

香田顧問は「将来、部員たちが指導者として育つためにも、まずは自身が生き様を示していかなければ」と後進育成に強い意気込みをのぞかせ、「けいこだけでなく、多くの書物

を読み、技の意味や理念を理解する“理合い”を身につけること。目先の勝ちにこだわらず、正攻法で本当の強さを知る剣士になってほしい」と思いを語る。

厳しいけいこを積んできた部員たちは、心身ともに気力あふれる真の剣で、頂点を目指す。



※写真提供:「剣道日本」より(左頁上段、右頁)

このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。

主な競技成績及び今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

柔道部 [記録]

- 第28回全日本学生体重別選手権
【男子66kg級】優勝 小倉武蔵 ※2連覇
【男子81kg級】優勝 田中康介
- 第25回全日本学生体重別選手権
【女子57kg級】優勝 牧志津香
- 世界ジュニア柔道選手権大会
【男子66kg級】優勝 森下純平
【女子63kg級】優勝 山本小百合
【女子78kg級】優勝 緒方亜香里
- 全日本学生体重別柔道団体優勝大会 準優勝
- 講道館杯全日本体重別選手権大会
【女子78kg級】優勝 緒方亜香里
- 全日本学生柔道女子選抜体重別団体優勝大会 優勝
- グランドスラム東京2009 国際柔道大会
【男子73kg級】準優勝 栗野靖浩
【男子90kg級】優勝 小野卓志
準優勝 西野大希
- 【女子48kg級】優勝 福見友子
【女子63kg級】3位 山本小百合
【女子78kg級】優勝 緒方亜香里
- 東アジア競技大会
【男子66kg級】優勝 小倉武蔵

陸上部 [記録]

- 第25回日本ジュニア陸上競技選手権大会
【男子110mハードル】優勝 大室秀樹 14秒18
【女子走り幅跳】優勝 中野瞳 5m97
- 【女子三段跳】優勝 前田和香 12m61、2位 大坂阿玖里
- 【女子やり投】優勝 柴泰子 55m76 ※ジュニア日本新記録・大会新記録

弓道部 [記録]

- 関東学生弓道選手権大会
【女子団体】準優勝
【女子個人】準優勝 白石唯
3位 上田理奈

バレーボール部 [記録]

- 秋季関東バレーボールリーグ戦
【女子】優勝 ※4季ぶり22度目
- 第56回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学男女選手権大会
【女子】優勝 ※6年ぶり

バスケットボール部 [記録]

- 関東大学バスケットボールリーグ戦
【女子】準優勝
- 全日本大学選手権
【女子】優勝 ※5年ぶり9回目

体操部(ラート) [記録]

- 第15回全日本ラート競技選手権大会
【男子総合】優勝 田村元延
【男子種目別】「直転」2位 田村元延
「跳躍」優勝 田村元延
- 【女子種目別】「跳躍」2位 三宅麻衣子

テニス部 [記録]

- 全日本大学対抗テニス王座決定試合
【女子ダブルス】準優勝 前澤かおる、品川祐希

第6回 歌留多(かるた)部

速さが決め手、^{たたみ}畳の上の格闘技



いにしへの歌人たちが、「五・七・五・七・七」の小気味よいリズムに詠んだ和歌を集めた「百人一首」。正月の遊びで、札をランダムに散らし、取った枚数を競い合ったり、「坊主めくり」などで誰もが親しんだことがあるだろう。

「歌留多(かるた)部」(野本信也顧問、森はるか部長・社会学類1年)は、百人一首の「競技かるた」を愛好し、昇段を目指して活動しているサークル。文化系サークル会館1階の和室で毎週火・木・日曜の週3回、練習を行っている。

部員は初心者から有段者まで19人(男子7人、女子12人)。全日本かるた協会や全国大学かるた連盟、茨城県かるた協会にも所属する。全国各地の大会や、国民文化祭などの試合に足を運び、参加者との交流を深めながら熱戦を展開している。

競技かるたは、25枚ずつ縦3段(段間は1cm)、横87cm内に並べた自陣の札を先になくした方が勝つ。お手つき



や、払う手が限られるなどのルールがある。1対1で向かい合う真剣勝負は畳の上。ポロシャツにジャージーなどの軽装で挑むことがほとんどだが、本格的に着物と袴の和装姿で挑む大会もある。並んだ札を前にし、読手(どくしゅ)が読み上げる句に全神経を集中する。次の札の上の句が読まれた瞬間、両陣が反応し、素早く下の句の札を払う。集中力を高め、静かに鋭く、緊張感あふれる試合の様は、さながらスポーツ競技を見ているよう。競技かるたが「畳の上の格闘技」と言われるゆえんだろう。

100枚の札のうち並べる札は50枚。自陣と敵陣に半分ずつで、試合前には、配置を記憶するため、15分間の暗記時間がある。最初の13分は静かに暗記し、残り2分は素振りしても良い。

いろはかるたと違い、同じ文字で始まる札は何枚もある。覚え方のコツについて、早川友里恵さん(人文・文化学



群人文学類3年)は「読み始めの文字を聞けばすぐ分かる“決まり字”の札があります。まず全ての句を頭にいれること。経験で自然に身に付くものです」。1字でわかる札は7枚。それを「1字決まり」と呼び、同じく「2字決まり、3字決まり」と続き、6字まである。

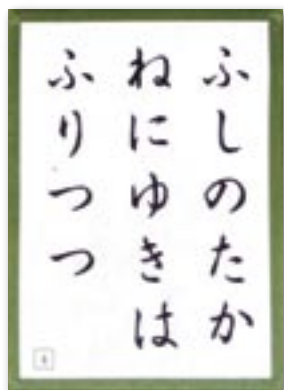
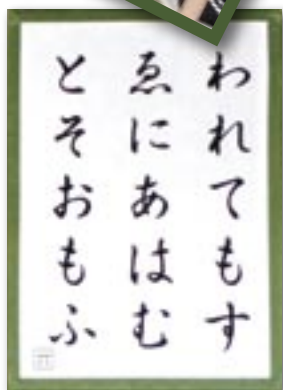
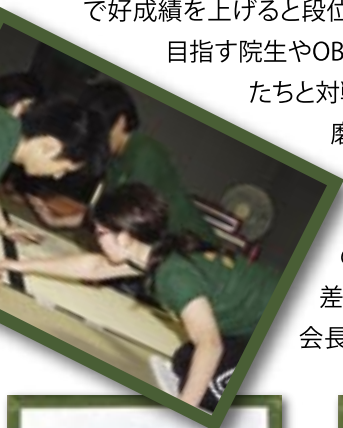
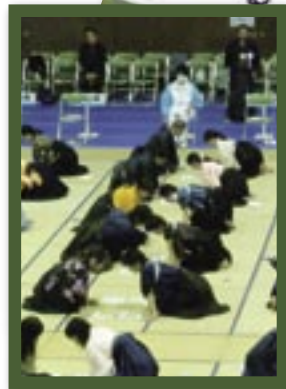
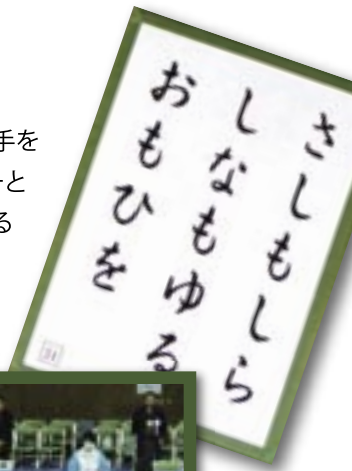
勝敗のゆくえを握るのは、何といっても“速さ”。句を聞き分け、瞬時に札を払う。お手つきしないよう読まれる札だけでなく、すでに何が読まれたかも正確に記憶しなければならない。「(競技かるたは)頭脳スポーツとも言われ、思考能力が鍛えられます。1試合約1時間半かかり、体力も必要。札を払う相手と接触して骨折することもあります」と話す早川さんは2段の腕前。段位ごとに級があり、卒業までにA級資格となる4段取得を目標に据えている。各大会で好成績を上げると段位取得につながる。昇段を目指す院生やOBも文サ会館の和室で部員たちと対戦を繰り返し、互いに腕を磨いている。

競技かるたの愛好者は世代も幅広く、各自のレベルによっては年齢差がある対戦もみられる。会長の小澤有香さん(医学群

看護学類2年)は「どんな対戦でも、相手を敬いフェアプレーすること」をモットーとし、「競技かるたは奥が深く、知れば知るほど面白い。初心者でも大歓迎、共に上を目指しましょう」とかるたの魅力を話す。

個人戦の大会は毎月開催され、学校や企業などの団体ナンバーワンを決める職域大会は年2回行なわれる。団体戦は5人チームで、個人戦を5組同時に進行し、勝敗を競う。大学日本一を決める全日本大学選手権は毎夏、百人一首にゆかりのある近江神宮(滋賀県)で開かれており、同部は2004年にB級(2、3段)準優勝を飾っている。

個々のレベルを伸ばしチーム力アップに、練習に熱が入る。本年度、数年ぶりに練習場の畳が張り替えられた。しかし、擦り切れるには長く時間はかからないだろう。暗記力と判断力、瞬発力を磨く、挑戦の日々が続く。



このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、各種発表会、またボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

津軽三味線無弦塾

1/24 第12回公演 [場所] ノバホール
[時間] 午前の部: 午前10時開場/10時半開演
午後の部: 午後4時開場/4時半開演
[料金] 一般: ¥3,000、学生: ¥1,500

THK 筑波放送協会

記録

■第26回 NHK全国大学放送コンテスト 12/5・6
ラジオドラマ部門: 1位
文部科学大臣奨励賞

ブロックフローテ同好会

2/6 定期演奏会 [場所] つくば文化会館アルスホール
[料金] 入場無料

フォルクローレ愛好会/フォルクローレサークル・南(スール)

2/11 第23回合同コンサート [場所] つくばカピオホール
[料金] 入場無料

筑波能・狂言研究会

3/18 卒業公演「三燦」 [場所] つくばカピオホール
[時間] 午後6時開場/6時半開演

筑波大学菅平高原実験センター創設75周年記念式典挙行

筑波大学菅平高原実験センターの創設75周年の記念式典が10月8日、同センターに隣接する「サニアパーク菅平」において、勝野頼彦文部科学省学術機関課長、母袋創一上田市長、地元の篤志家の方々などを招待し、開催されました。この日は、台風18号が直撃する中ではありましたが、約100人の方々が参加され、式典の後は、同センターの視察や祝賀会が和やかに行われました。



勝井三雄展「色光の紋章」

筑波大学同窓の世界的グラフィックデザイナー勝井三雄氏の展覧会「色光の紋章」が10月20日～11月1日まで、総合交流会館で開催されました。10月20日は、山田信博学長、柴田良貴芸術学系長らのあいさつの後、テープカットを行い、多くの来場者が色光の芸術を堪能しました。



第29回つくばマラソン女子の部で本学学生の水谷理紗さんが優勝

11月22日、筑波大学構内を
発着会場として開催した「第
29回つくばマラソン」(筑波
大学、つくば市など主催)のフル
マラソン女子の部で、水谷
理紗(医学群6年)さんが2時
間43分14秒で優勝しました。

水谷さんは前回大会でも2
時間46分40秒で優勝しており、自身の記録を更新すると
ともに、2年連続優勝の快挙
を遂げました。

つくばマラソンは毎年1万
人以上が参加する大規模な
市民マラソンで、今大会には
1万3203人が参加しました。



来訪者〈海外〉

10月1日(木)
学長表敬



来訪者:モロッコ王国 在日モロッコ王国大使一行
目的:本学とモロッコ王国や北アフリカ諸国との学術交流の展望につ
いて意見交換及び本学北アフリカ研究センターとの協力強化

10月27日(火)
学長表敬



来訪者:大韓民国 韓国教育科学技術部一行
目的:日韓教育行政官交流事業に基づく、教育機関の調査及び懇談

11月17日(火)
学長表敬



来訪者:アメリカ合衆国 カリフォルニア州アーバイン市長一行
目的:つくば市との姉妹都市提携20周年のための来日における本学学
長への表敬及び施設見学

12月2日(水)
学長表敬



来訪者:ドイツ連邦共和国 ノルトライン・ヴェストファーレン州イノベ
ーション・科学・研究・技術省次官一行
目的:本学ボン事務所の協力体制についての意見交換

受賞

■飯塚儀明副臨床検査技師長(附属病院検査部)と 宮川牧子技術専門職員(医学系技術室)が 平成21年度 医学教育等関係業務功労者表彰を受賞

飯塚儀明副臨床検査技師長(附属病院検査部)と宮川牧子技術専門職員(医学系技術室)が11月25日、長年にわたる大学病院、医学教育の業務功労者として、文部科学大臣から表彰されました。12月15日には、受賞の報告のため、山田信博学長を表敬し、山田学長から二人の功績に対する感謝とねぎらいの言葉が贈られました。



写真左から 宮川牧子技術専門職員、山田信博学長、飯塚儀明副臨床検査技師長

●主な受賞等一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
2008年度日本動物細胞工学会奨励賞	Han Jun Kyu 助教 (生命環境科学研究科 生物圏資源科学専攻、北アフリカ研究センター)	_____
2009年度農業施設学会賞論文賞	佐竹隆頭 教授 (生命環境科学研究科 生命産業科学専攻) 院多本華夫 講師 (生命環境科学研究科 生命産業科学専攻)	_____
社団法人日本金属学会第7回学術貢献賞	宮崎修一 教授 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻)	_____
社団法人日本金属学会第13回優秀ポスター賞	宮崎修一 教授 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻)	_____
平成21年度茨城県医師会勤務医会学術奨励賞	柴田靖 准教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻、 本学水戸地域医療教育センター水戸協同病院脳神経外科部長)	_____
独立行政法人日本学術振興会平成21年度 科学研究費補助金第1段審査委員表彰	坪内孝司 教授 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻)	_____
第4回(2010年)日本物理学会若手奨励賞	水落憲和 講師 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻)	_____
第48回電子スピンスイエンズ学会奨励賞	水落憲和 講師 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻)	_____
第19回太陽光発電国際会議(PVSEC-19) Oral Presentation Award	末益崇 准教授 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻) 塚田大 (数理物質科学研究科 修士課程修了(H20)、大日本印刷株式会社) 松本雄太 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士前期課程2年)	末益崇 准教授 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻)
第19回太陽光発電国際会議(PVSEC-19) Best Paper Award	秋本克洋 教授 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻) 櫻井岳暁 講師 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻) Islam Muhammad Monirui (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士後期課程3年) 上東秀幸 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士前期課程修了(H20))	秋本克洋 教授 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻) 櫻井岳暁 講師 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻)
平成21年日本デザイン学会年間作品賞	西川潔 教授 (副学長、人間総合科学研究科) 山本早里 准教授 (人間総合科学研究科 芸術専攻)	_____
財団法人語学教育研究所市河賞	長野明子 講師 (人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻)	_____
中国留日同学会第12回留学成果報告会 中華人民共和国駐日本大使賞	Xing Lu 研究員 (先端学際領域研究センター)	赤阪健 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
平成21年度国立大学図書館協会賞	筑波大学附属図書館プロモーションビデオ制作ワーキンググループ (撮影協力▽劇団竹蛸鈴、THK筑波放送協会、サイクリング部)	_____
第12回エネルギー利用技術作品コンテスト指導功労賞	佐保純 教諭 (附属中学校)	_____
2009生態工学会年会大会優秀発表賞	新井真由美 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻 社会人博士(H20早期修了)) 山口芽衣 (生命環境学群 生物資源学類3年) 藤森祥平 (生命環境学群 生物資源学類2年)	佐藤誠吾 教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻) 横谷(富田)香織 講師 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻) 松山茂 講師 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)

受賞名	受賞者（所属・学年）	指導・研究室
2009年度日本知能情報ファジィ学会奨励賞	山城牧人 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 前期課程2年)	遠藤靖典 准教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)
財団法人日本英語検定協会 第22回(2009年)英検研究助成研究部門入選	清水遙 (人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻 博士後期課程1年)	卯城祐司 教授 (人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻)
第11回松本清張研究奨励事業に入選	前田洋平 (人文社会科学研究所 国際公共政策専攻 博士前期課程2年)	中村逸郎 教授 (人文社会科学研究所 国際公共政策専攻)
社団法人日本化学会第3回関東支部大会(2009)優秀ポスター賞	野澤竹志 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士前期課程1年)	関口章 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
社団法人日本化学会第3回関東支部大会(2009)学生講演賞	稲垣佑亮 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士前期課程2年)	関口章 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
2009年度農業施設学会賞奨励賞	森山英樹 (生命環境科学研究科 生命産業科学専攻 博士後期課程修了(H19))	山口智治 元教授 (生命環境科学研究科 生命産業科学専攻)
第62回コロイドおよび界面化学討論会ポスター賞	佐藤良太 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士後期課程2年)	寺西利治 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
日本体力医学会新潟大会研究奨励賞	岡本正洋 (人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期課程1年)	征矢英昭 教授 (人間総合科学研究科 体育科学専攻)
日本化学会第3回関東支部大会学生講演賞	鈴木義人 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士前期課程2年)	寺西利治 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
	佐藤悟 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士後期課程2年)	赤阪健 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻、 先端学際領域研究センター)
	青山亮 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士前期課程1年)	
	高祖修一 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士後期課程1年)	富重圭一 准教授 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻)
2009 URISA学生論文最優秀賞	Ko Ko Lwin (生命環境科学研究科 地球環境科学専攻 後期課程3年)	_____
第104回触媒討論会若手優秀講演賞	高祖修一 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士後期課程1年)	富重圭一 准教授 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻)
第37回フラーレン・ナノチューブ総合シンポジウム 若手奨励賞	美野輪まり (数理物質科学研究科 化学専攻 博士前期課程2年)	赤阪健 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
日本宇宙生物科学会第2回宇宙科学奨励賞	新井真由美 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻 社会人博士(H20早期修了))	佐藤誠吾 教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)
		横谷(富田)香織 講師 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)
第3回分子科学討論会優秀ポスター賞	三ツ元清孝 (数理物質科学研究科 物質創成先端科学専攻 博士後期課程1年)	二瓶雅之 講師 (数理物質科学研究科 物質創成先端科学専攻)
2009年度第18回地理情報システム学会 学術研究発表大会優秀発表賞	村上大輔 (システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士前期課程1年)	堤盛人 准教授 (システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻)
第25回個体群生態学会大会ポスター賞敢闘賞	高橋佑磨 (生命環境科学研究科 生命共存科学専攻4年)	渡辺守 教授 (生命環境科学研究科 生命共存科学専攻)
優秀安全ポスター表彰(本学環境安全管理室) 優秀安全衛生ポスター賞 同 優秀安全衛生標語賞	錦織友香 (数理物質科学研究科 化学専攻1年)	_____
	高山亮 (理工学群 化学類 1年)	_____
第68回日本公衆衛生学会総会優秀演題賞	相崎扶友美 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻 3年制博士課程、 一貫性博士課程 疾患制御医学専攻(ダブルメジャープログラム 小児科専門医))	田宮菜奈子 教授 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻)
		金子道夫 教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻)
NOLTA 2009 Student Award	濱砂幸裕 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士後期課程3年)	遠藤靖典 准教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)
第13回ケイ素化学協会シンポジウムポスター賞	野澤竹志 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士前期課程1年)	関口章 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
国立情報学研究所 CiNiiリニューアル記念 ウェブAPIコンテスト優秀賞	牧野雄二 (図書館情報専門学群(H18卒)、ゆうき図書館職員)	_____
	増田佳那子 (情報学群 知識情報・図書館学類3年)	
	康大樹 (情報学群 知識情報・図書館学類3年)	
	柿島大貴 (情報学群 知識情報・図書館学類3年)	
2009年度S-PLUSユーザカンファレンス 学生研究奨励賞 佳作	村上大輔 (システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士前期課程1年)	堤盛人 准教授 (システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻)
情報処理学会データベースシステム研究会 (WebDB Forum 2009)学生奨励賞		森嶋厚行 准教授 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻)
	高橋公海 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻2年)	杉本重雄 教授 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻)
		北川博之 教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)
社団法人情報処理学会 第149回データベースシステム研究会学生奨励賞	片山太一 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻 博士前期課程1年)	宇津呂武仁 准教授 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻)
第12回エネルギー利用技術作品コンテスト文部科学大臣賞	大竹真央 (附属中学校1年)	_____
第58回埼玉県高等学校演劇中央発表会最優秀賞	附属坂戸高等学校演劇部	_____



—まずはじめに、図書館情報大学(当時)に進学を決めた理由と、大学時代についてお聞かせ下さい

本が好きで、書くよりは図書館司書になるほうが現実的だと思い、中学生のころからずっと図書館司書になりたくて、専門的な勉強ができる図書館情報大学に進学しました。最終的にわたしは司書にならなかったのですが、今では図書館には近寄りたいです(笑)。大学時代はサークルには所属せず喫茶店や吾妻のレストランでウエートレス、体芸図書館でバーコードの読み取りなどのアルバイトを掛け持ちし、とても楽しく過ごしました。

—小説を書き始めたきっかけをお教え下さい

高校のとき、フランソワーズ・サガンの「悲しみよこんにちは」を読み、わたしと同年齢で書いた小説だと知って、衝撃を受けました。その時はっきりと、「いつかこんな風に書いてみたい」と思いました。その後、少しは書いてみたものの、結局は何を書けばいいかわからないし、手書きだと続かなくて止めていました。しかし、大学でパソコンを覚え、授業の合間に書いたものをプリントアウトしたら、手書きとは違いすでに本になっているようで、うれしくて。そんな気持ちから、1つ作品を完成させたくなり、本格的に書き始めました。

—在学中に執筆された「窓の灯(あかり)」が文藝賞(2005年)を受賞しました

わたしはパソコンを持っていなかったのですが、大学の実習室でずっと書いていました。それがデビュー作「窓の灯」で、図情で生まれた作品です。卒業後、旅行会社に就職し半年経ったころ、受賞の連絡をいただきました。会社での配属先が決まり、仕事も大変な時期だったので、(受賞は)うれしいけれど、どうしようって戸惑いましたが、書いた小説を世の中に出すというチャンスをもらえたことが、すごくうれしかったです。

—文藝賞、芥川賞、川端康成文学賞を受賞されました。作品のどんなところが評価されたと思いますか

「窓の灯」は小説の中の温度が一定に保たれていたこと。「ひとり日和」は文藝賞受賞後まだ2作目で、あまり技巧的なことを施さない素直さが良かったのかと思います。「かけら」も、わりと素直な作品で、あまりトリッキーなことをしなかったのが、良かったのかと思っています。

本学在学中に執筆した作品が文藝賞を受賞し文壇デビュー。
2007年に芥川賞、昨年は史上最年少で川端康成文学賞を受賞した
青山七恵さん(図書館情報専門学群、05年卒)に、作品がどのように生まれ、
将来どのような作品づくりを目指すのか、お話を伺いました。

あお やま なな え
青山七恵さん
小説家

プロフィール

1983年 埼玉県生まれ
2005年 筑波大学図書館情報専門学群卒
// 「窓の灯」で第42回文藝賞受賞
2007年 「ひとり日和」で第136回芥川賞受賞
2009年 「かけら」で川端康成文学賞受賞



—作品構成は、どのように生み出すのですか

日常生活の中で見た風景や感じたことをヒントにしています。話自体がちゃんと思いつくのは、深夜にパソコンに向かった時。わたしは最初と最後をだいたい決めておいて、間を埋めていくことが多いです。執筆過程で結末が変わってしまうこともありますけれど(笑)。登場人物設定も細かくは決めません。書いていくうちに人物の性格が見えてきます。

—大学時代の日常や風景が参考になった場面もあるのでしょうか

結構実在の場所を書いていることが多いです。場所はどことはひと言も書いていませんが、「窓の灯」はつくばの小説とも言えます。バイト先の喫茶店が強烈に印象に残っていてイメージしました。「窓の灯」は覗きがひとつのテーマになっているのですが、そのころ実際に覗き現場を目撃してしまったことがあるんです。覗きをしている人をわたしが見ているという構図は面白いと思って参考にしました。時々、自分の経験から着想を得ることがあります。

—本年度、川端康成文学賞を史上最年少で受賞、どのように受け止めていますか

最年少受賞ということに戸惑いはありませんが、受賞は退職の2カ月後で、それまで小学校から大学、会社というように必ずどこかに所属していることが当たり前だったので、急に一人になり心細く感じていた時でした。一人になって迷っていた時期に、賞をいただけて、しかも短編を頑張ろうと思って書いた作品での受賞がすごくうれしかった。「進んだ道はこれでいいんだ」という自信につながりました。

—好きな作家はいますか。どんな作品を読んでこられたのでしょうか

小学生のころからアガサ・クリスティーが好きです。中学時代は川端康成や吉本ばななさんの作品を読んでいました。ばななさんの作品を読んだ時は、初めて大人の小説を読んだという感覚がありました。中学1年でしたから、内容はきちんと理解できてはいないのですが、これが小説というものなのだと、新鮮な驚きがありました。

—今後書きたいものや目標は

デビュー当時から思っているのは、できるだけ息の長い作家でいること。たくさん書けば書くほど、きっと成長できる。世の中の人に届くチャンスがそれだけ増えるので、長く書き続けていきたいです。40歳くらいになったら、推理小説にもチャレンジしたいです。わたしはフィギュアスケートを見るのが好きで、良い演技をした選手の表情を見ると、わたしまで晴れやかな気持ちになります。ですからわたしも、小説家という仕事で世の中に関わりを持てる以上、小説を通して人に前を向く力を出させることができればいいなと思っています。これまであまり小説に強いメッセージは込めませんでした。これからはもう少し、希望を感じてもらえる小説が書けたらと思っています。

—現在、執筆中の作品についてお聞かせください

月刊文芸誌「群像」で、わたしの初連載作品「わたしの彼氏」が1月号から連載中です。男子大学生の話で、登場する学校は図書館情報学群のキャンパスをイメージして書いています。図情の人が読んだら分かりますね、きっと。連載は約1年の予定ですので、読んでみて下さい。

—本学へのメッセージをお願いします

大学時代にもっと勉強しておけばよかったと思っています。だからといって今の学生さんに、授業をちゃんと受けてくださいと言っても、こんな気持ちは分らないと思いますが、わたしは今からでも入りなおしたいくらい。メディア論など学んでみたいです。一人で勉強するのではなく、みんなと学べる環境っていいなと思いますから、今を大切にしてください。それと、本をたくさん読んでほしいです。自分で発信する行為はすごく大事ですが、その前にできるだけ吸収しておくこと。そのために、本をたくさん読むことをおすすめします。

—最後に、好きな言葉を教えて下さい

希望。2010年のテーマです。作風だけでなく、いろんなことに常に“希望”を持っています。



リレー エッセイ

附属病院総務部医事課
岡澤 貞雄さん



私が小学生のころは、夏休みともなれば決まって担任の先生から理科の宿題として「昆虫採集をやってきなさいよ」と言われ、母親が古い蚊帳を利用して作ってくれた捕虫網を片手に先輩や後輩たちと、自宅近くの里山や草原を駆け巡った記憶が、今もなお鮮明に残っています。

その後、チョウに興味を持ち始めた私は、現在も趣味として休みの時には同じ年齢ぐらいの仲間たちと共に、捕虫網やカメラを片手に草原や里山などを駆けずり回り、チョウの幼虫が食べる植物や樹木の葉、成虫となったチョウが吸引する花の蜜や樹液などの観察に没頭し、チョウの保護活動も行っています。

次回は、財務部契約課の佐藤尚志さんです。
「酒飲みも私と心が通じ合える雰囲気を持っています。山を愛する仲間として今後ともよろしく願います」

人文社会科学等支援室
落合 俊介さん



横浜市からつくば市に引っ越してきて、およそ一年半がたちました。

妻は新しい土地での生活が非常に不安でしたが、今では幼児サークルの代表を務めるなどして、すっかり馴染んで家族みんな楽しく過ごしております。

休みの日には上の娘と循環バスで大学を1周し、中央公園を散歩して、図書館で絵本を読んで過ごすことが多いです。

最近、伊太利亜台所カーリーナ（住所：つくば市大角豆2012-748）にはまっています。毎月のように通っております。

次回は、人事課の小島幹正さんです。
「採用になったときの係長で、社会人になりたての私を優しくご指導いただきました。尊敬している上司の一人です」

人間総合科学研究科
学校教育学専攻
教授
塚田 泰彦さん



実家に戻ると、近くの堤防をジョギングする。これと言って趣味のない私には、幼いころに親しんだ桜堤や四季を通じて滔々^{とうとう}と流れる川面を眺めるときが至福の時間である。25年前に富山大学に赴任した時は神通川近くの官舎から、何度もその流れに目を遣って気を休めたが、つくばに来てからはそうした機会がない。いつかミシシッピ川のような大河を眺めたいという憧れはまだ叶わないが、5年前、学会で訪れたフランス・トゥールーズで、街を深く穿ちながら静かに流れるガロンヌ川をゆっくり眺める時間があったことが、大河への憧れを一層強いものにした。

次回は、附属桐が丘特別支援学校副校長の吉沢祥子さんです。
「同校の先生方と勉強する機会をいただき、その度に吉沢さんはいつも温かい気持ちで接して下さいます」

医学系支援室
坂本 順子さん



ふらりと浮島へドライブに行った。稲敷大橋際、霞ヶ浦の岸沿いに車を進めるとすぐ野鳥観察小屋がある。ここは湖面を渡ってくる風が心地良い。車を止めて深呼吸。遠くに筑波山が望める。窓を開放し、ゆっくりと季節を感じながら車を走らせる。前方の和田岬を回る細い道路へと進み船着き場横を通る。のんびりと釣り客が釣り糸を垂れている。岬を回るともう遮るものは何もない。手前に霞ヶ浦、その湖面の向こうに筑波山が見える。私のお気に入りの場所。そよ風に吹かれて解放感に浸るひと時。さあ、リフレッシュ完了。

次回は、農林技術センター技術室の酒井一雄さんです。
「附属病院前の特設収穫物販売所でお話しました。温泉旅行がお好きだそうです」

本部付き
教授

荻野 祥三さん



つくばエクスプレスで通勤している。市街地を抜けると少し旅行気分。向かい席の女性は弁当を食べている。終わると脳の解剖図鑑を取り出した。筑波大学図書館の蔵書だった。医学生か。エクスプレス車内ならではの光景だ。帰路に缶ビールを買うこともあるが、あの常磐線と違って、飲むにはちょっと勇気がいる。ボックス型シートならまだしも、通勤型シートは困る。私が、「仕事を終えホッとする乗客」ではなく、「気の毒な〇〇依存症」と見られそうでいけない。TXさん、「輸送力増強」のためにボックス型を減らさないで。

次回は、生命環境科学等支援室の廣澤恭子さんです。
「白髪にして新米教員の私に、色々と親切に教えて下さいました」

プラズマ研究センター

嶋 頼子さん



友達に誘われてロードレーサーを購入しました。なかなか面白さが分かりませんでしたが、友達のチームに混ぜてもらい一緒に走るようになってから、とても楽しくなりました。登れなかった坂が登れるようになったり、「二度と来たくない…」と思っていたコースが楽に感じたりするたび、心の中でガッツポーズを取っています。中学校の部活以来忘れていた「頑張る快感」を思い出しています。4-5人で連なり、みんなで無言で走っているだけなのですが、とても楽しい不思議なスポーツです。

次回は、附属病院看護部(930病棟)看護師の森田千映さんです。
「ロードレーサーを通じて知り合いました。まさに、憧れる「カッコイイ」女性です」

病院総務部医事課

高野 雄二さん



私がヨットを始めたのは、筑波大学公開講座「ヨット入門」がきっかけです。以来約20年になりますが、月1回開催される霞ヶ浦でのレースに参加する程度なので、ちっとも上達しません。時には強風にあおられ、波しぶきを浴びてびしょ濡れになりながら、仲間の艇との競い合いも楽しみですが、風の穏やかな日に、みんなでお昼を食べ湖上をのんびり漂いながら見る風景も格別です。湖面からの風景は陸上からのそれとは違い、日常の喧騒を忘れさせてくれます。4月になると、またレースが始まります。昨年7月には公開講座「カヤック入門」にもチャレンジしました。まだしばらくは水遊びが続きそうです。

次回は、システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻教授の山本順人さんです。
「山本先生には若かりしころ、仕事で鍛えられました。ヨットでも大先輩です」

附属久里浜特別支援学校

森野 昌子さん



西海岸の自宅から半島を挟んで真東10kmの海沿いに本校がある。三浦半島は海と山に囲まれ温暖で、都心に近いのに昔ながらの歴史・文化・自然を残し、小さいのに豊かで多様な顔を持つ。東での私は明るく元気な天使たち(自閉症児)の笑顔に囲まれ、キリリと働く。さて西では、家事と介護をこなす主婦、ある時は獲物を追う漁師(釣り)、ある時はギターをかき鳴らすRocker(親父バンド)として、全く別の顔を楽しんでいる。子どもの笑顔、旬の野菜や魚介、家族や仲間との時間。この豊かさが当たり前でなく有り難いことを忘れないようにしたい。

次回は、附属久里浜特別支援学校の副校長の倉見昇一さんです。
「校内のどこからも聞こえる高らかな笑い声。繊細でしなやか。校長はじめ、教職員、保護者からの厚い信望を得ています」



本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【茗溪会とは】 社団法人茗溪会(西野虎之介理事長)は、筑波大学同窓会を母体とする公益法人で、1882年に設立しました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校(東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など)の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

茗溪会つくば公開講座

茗溪会のつくば公開講座をこの秋3回開催した。9月26日の幸田弘子さんの朗読(既報)に続き、10月25日には筑波研修センターで、藤原保明筑波大学名誉教授が「日英ことば遊び入門」を、11月14日には、JICA個人コンサルタントの中込璋(あきら)氏が「地雷被害国を安全な機械除去で援助しよう」の講演を行った。

藤原先生は、日本語と英語を比較して、両言語に共通する「ことば遊び」の面白さを、回文やなぞなぞについて豊



藤原 保明氏

富な例をあげながら語った。それぞれの時代背景、当時の人々の文化や教養、嗜好(しこう)を感じ取りながら、日本文化の持つ知的水準の高さと内容の豊かさを認識する講演となった。

また、中込氏は、世界の紛争地域に



中込 璋氏

おける対人地雷除去などの国際貢献について講演。建設機械の開発に携わってきた中込氏は、カンボジアの病院で地雷で片足を失って苦しんでいる多くの幼児を見たのを契機に、「何十年も生き続ける悪魔の兵器」を根絶するために、対人地雷除去機の研究に取り組み、機械化に成功した。また、この講演では世界各地での地雷除去と職業訓練の重要性を呼び掛けて、深く感銘を与えた。

橘会支部 『青山七恵と気軽に朗読会』開催

橘会支部は10月11日、筑波大学のホームカミング・デーにタイアップして、春日キャンパスで公開イベント『青山七恵と気軽に朗読会』を開催した。これは、図書館情報大学に入学して、大学統合により筑波大学図書館情報専門学群を卒業した芥川賞作家の青山七恵さんを招いて、彼女の作品を俳優榎谷裕さんの朗読で聴くという催しで、つくば市民を含め約80人が楽しんだ。

会には、山田信博学長も飛び入りで参加し、和やかな会となった。



(左から) 榎谷 裕氏、青山七恵氏



第14回茗溪・筑波グランドフェスティバル

日時：2010年1月30日(土) 13:00～

会場：筑波大学 大学会館

シンポジウム基調講演

一倉 宏氏 「感じることから始めよう」

共催：筑波大学／茗溪会

会費：前納4,000円 当日5,000円

連絡先：〒305-1572 つくば市天王台1-1-1

大学会館内紫峰会気付 MTGF実行委員会

TEL 029-852-8572 info@mtgf.net



本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【紫峰会とは】 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とそのご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

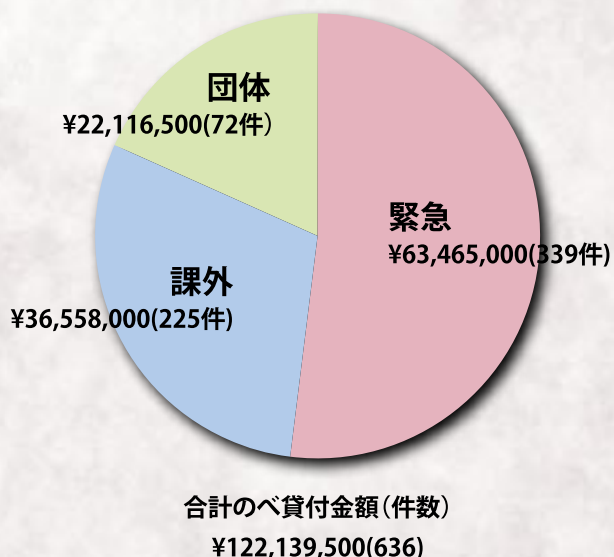
紫峰会では、学生向けの貸付金として3種類の制度があります。同制度を通じて今までにのべ636件、1億2000万円を貸し付けました。

「緊急貸付金」は、学生が事故災害等により、生活資金や勉学のための資金が不足した際に貸し付けを行っています。「課外貸付金」と「団体貸付金」は、課外活動団体の（サークル）活動のため、臨時に多額の費用を要する場合に、団体や、団体に所属する学生に対して貸し付けるものです。サークル活動を始めるにあたって最初に用具などを購入しなければならない場合や、非常に多くの費用を季節的に必要とする場合などの利用が目立ちます。

貸付金制度の沿革

1982年、ある学生の授業料が盗まれた事件をきっかけに、学生部学生課（当時）の要請により主に大学の「学生生活救急資金」を補うことを目的として、貸付金制度が発足しました。当初は、大学からの要請のあった学生に対してのみ貸し付けを行うだけでしたが、現在は、個々の学生からの申請を紫峰会事務局にて受け付けています。申請があった場合には、まず紫峰会の担当職員が面接を行い、詳しい状況などを伺っています。この面接は「家計相談」とも言えるもので、この相談により貸し付けを受けなくても自力で状況の打開が図れるとの結論に至る場合も少なくありません。また、貸し付けを受ける必要があるとなった場合には、返還計画を提出してもらいその内容がきちんとしていることを担当職員が確認した後に、手続きを進めることになっています。

過去の貸付金内訳（S57～H21）



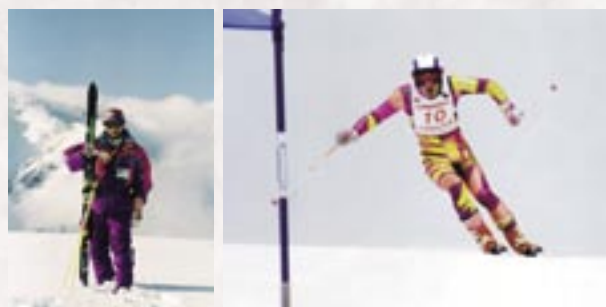
スキー部の思い出

茨城県内病院勤務
絹笠 友則（平成5年医学卒）

学生時代は医学スキー部に所属しスキーに明け暮れていました。雪のない間はせっせとバイトをし、生活を切り詰めてシーズンに備えました。

上級生になり病院実習などが始まるとバイトをする時間が少なくなりました。そこで紫峰会から課外貸付金をお借りし最後のシーズンにかけることができました。相変わらず部の後輩たちは紫峰会にお世話になっているようです。

これからも紫峰会がますます発展し、後輩たちが自分たちと同じように援助を受け、かけがえのない学生生活を送ることができればと、切に願っております。



	緊急貸付金	課外貸付金	団体貸付金
申請窓口	紫峰会事務局	各系財務局	各系財務局
金額上限	25万円	20万円	60万円
利子	無利子	無利子	無利子
返済期間	1年	1年	4年
連帯保証人	父母等	各系執行部	各系執行部
紹介教官	クラス担任教員 指導教員等	顧問教員	顧問教員

	記 事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	本学菅平高原実験センターが創立75周年で10/4施設公開へ	沼田治センター長 町田龍一郎准教授 田中健太助教 山中史江(技術職員)	信濃毎日(10/1) 読売長野(10/2) 信濃毎日(10/3) 週刊上田(10/3)
2	本学サイバニクス拠点がデンマークの大学と提携 ロボット技術、共同研究へ	山海嘉之教授(システム情報工学研究科)	日経(10/2) 日経産業(10/5)
3	◆附属図書館特別展「日光 描かれたご威光東照宮のまつりと 将軍の社参」 10/30まで同図書館で	山澤学講師(人文社会科学研究科)	茨城(10/2)
4	本学が海外拠点新設を発表 8月のベトナム・ホーチミン市に続き10/1に中国・北京を開設	山田信博学長	産経(10/4)
5	本学の学生団体「斬桐舞(きりぎりまい)」が来月/パリで公演 ソーラン節を披露	守屋俊甫(人間総合科学研究科 博士前期課程1年)	朝日(10/11) 常陽(10/14) 東京(10/31)
6	▽利根往来:山田信博学長 国際的知名度アップに期待	山田信博学長	日経(10/15)
7	▽JAPAN ITの異才たち ソフトイサ会長・登大遊さん	登大遊(人間総合科学研究科 修士前期課程2年、ソフトイサ会長)	日経産業(10/20)
8	本学発のベンチャー企業・ニューフォレスターがギター演奏を 疑似体験できる携帯電話向けソフトを、本学と共同で開発	星野厚社長 浜中雅俊教授(システム情報工学研究科)	日経産業(10/26)
9	漫遊いばらき観光ポスター、本学生がデザイン	原忠信講師(人間総合科学研究科) 樋田勇也(芸術専門学群3年)	日経(10/31) 茨城(10/31) 読売(11/2) 常陽(11/3) 毎日(11/12)
10	第78回全国盲学校弁論大会全国大会 優勝にファン・バン・ソンさん(附属視覚特別支援学校専攻科2年)	ファン・バン・ソン (附属視覚特別支援学校専攻科2年)	毎日(11/5)
11	本学・計算科学研究センターの研究グループが T1リパーゼ立体構造を解明 医療分野の活用期待	佐藤三久教授(計算科学研究センター長) 館野賢准教授(計算科学研究センター)	常陽(11/7)
12	第28回全日本女子学生剣道優勝大会 本学が2年連続7回目の優勝	筑波大学剣道部 有田祐二(女子剣道部・監督) 鈴木愛梨(体専4年、女子剣道部・主将) 美浪未依(同、同・副将)	毎日(11/9夕、11/10)
13	▽顔:赤座英之教授 亜細亜のがん研究に力を注ぐ	赤座英之 (人間総合科学研究科、附属病院がん診療センター部長)	読売(11/11)
14	本学附属病院総合がん診療センターが11/29につくば国際会議場で 俳優・菅原文太さん招き特別講演	赤座英之 (人間総合科学研究科、附属病院がん診療センター部長)	朝日(11/13)
15	パソコン甲子園で附属駒場高がグランプリ受賞 同校別チームも3位に	附属駒場高校	東京(11/16)
16	本学が企業支援で12月に「サービス改善研修コース」を開設 経営データ、共同解析 サービス向上に科学力	高木英明教授(システム情報工学研究科)	茨城(11/18) 常陽(11/19) 日経(11/20) 日経産業(11/26)
17	本学の「北アフリカ・地中海連携センター」が開所 広がる教育ネットワーク	山田信博学長 塩尻和子副学長 安部征雄教授	常陽(11/18)
18	次世代スパコン凍結で、研究者らが「遅延なき継続を」と緊急声明	宇川彰副学長(計算基礎科学コンソーシアム代表) 佐藤三久教授(計算科学研究センター長) 青木慎也教授(計算科学研究センター) 梅村雅之教授(計算科学研究センター) 計算基礎科学コンソーシアム	産経(11/19) 日経(11/19) 常陽(11/19) 日経産業(11/19、11/20) 日刊工業(11/19) 茨城(11/20) 毎日(11/20) 読売(11/20、11/22) 東京(11/20) サンケイビジネス(11/20)
19	山田信博学長が「事業仕分け」に抗議声明を発表	山田信博学長	産経(11/28)
20	本学主催の第4回「科学の芽」賞に2人と1団体が入賞		毎日(11/28) 常陽(12/8)
21	本学ブランドの日本酒「桐の華」を再販売 新たに2合瓶と一升瓶も	内山裕夫教授(生命環境科学研究科) 安ヶ平良人(生命環境科学研究科 修士課程2年)	時事通信(11/28) 日経(12/1) 産経(12/8) 茨城(12/8)
22	柔道の創始者・嘉納治五郎の銅像を来年12月に本学キャンパス内に 新設来年生誕150周年で	阿江通良(体育専門学群長)	朝日(11/30) 産経(12/5)
23	バスケットの全日本女子大学選手権、本学が5年ぶり9度目の優勝	女子バスケットボール部 大高敏弘監督	朝日(11/30) 毎日(11/30) 東京(11/30) 茨城(11/30)
24	本学の留学生受け入れ拡大 北アフリカ拠点を整備	北アフリカ・地中海連携センター	日刊工業(12/1)
25	▽ニッポン人・脈・記 漢字の森深く ⑥木簡の裏に恋の万葉歌	森岡隆教授(人間総合科学研究科)	朝日(12/2)
26	事業仕分け 科学政策専門の小林信一教授に聞く	小林信一教授(ビジネス科学研究科)	読売(12/6)
27	全日本大学バレーボール女子が優勝 6年ぶり6度目	女子バレーボール部 中西康己監督	朝日(12/7) 茨城(12/7)
28	柔道グランドスラム東京 本学勢、光る活躍 緒方亜香里が女子78 ^{kg} 級頂点に 男子90 ^{kg} 級、小野卓志が西山大希破りV	緒方亜香里(女子78 ^{kg} 級) 平岡拓晃(男子60 ^{kg} 級) 森下純平(男子66 ^{kg} 級) 田中浩平(男子66 ^{kg} 級) 栗野靖浩(男子73 ^{kg} 級) 小野卓志(男子90 ^{kg} 級) 西山大希(男子90 ^{kg} 級) 山本小百合(女子63 ^{kg} 級)	朝日(12/12、12/13) 読売(12/12、12/13) 東京(12/12、12/13) 日経(12/12) 産経(12/12、12/13) 茨城(12/12) 毎日(12/13)
29	女子柔道48 ^{kg} 級で福見友子が優勝 揺るがぬ自信	福見友子 (人間総合科学研究科2年、了徳寺学園職員)	朝日(夕)(12/14) 毎日(夕)(12/14) 読売(夕)(12/14) 日経(夕)(12/14) サンスポ(12/14) 茨城(12/15) 常陽(12/15)
30	長谷川泰久准教授らの研究チームが補助走行支援器具を開発 電動で「走り」アシスト	長谷川泰久准教授(システム情報工学研究科)	日経産業(12/16)
31	日本柔道界に期待の兄弟が登場 兄は本学の西山大希	西山大希(体専1年)	東京(夕)(12/16) 読売(夕)(12/25) 常陽(12/26)
32	中内靖准教授らが、犯罪被害抑止につながる子どもを 見守るシステムを試作	中内靖准教授(システム情報工学研究科)	日経(12/17)

イベントカレンダー (1月～3月)

1月

- 4日(月) 仕事始め
学長年頭挨拶
- 16日(土) 大学入試センター試験(～17)
- 22日(金) 第9回TXテクノロジー・ショーケース
inつくば2010(～23)
- 27日(水) 特別講演会
「小林 誠 博士(2008年度ノーベル物理学賞受賞者)」
第3回筑波大学 次世代医療研究開発・教育
統合センター(CREIL)公開シンポジウム
- 30日(土) 大学入試センター試験追試(～31)
茗溪・筑波グランドフェスティバル



2月

- 1日(月) 大学院入試「2月期」(～3)
- 4日(木) 第38回肢体不自由教育実践研究協議会
(附属桐が丘特別支援学校)(～5)
- 6日(土) エネルギー・環境教育シンポジウム
- 7日(日) ビジネス科学研究科企業法学専攻・
企業科学専攻入学試験(2次)
- 10日(水) 比較文化学類 特別講演会
「写真評論家 飯沢耕太郎・作家 青山七恵(予定)」
- 11日(木) 自閉症教育実践研究協議会
(附属久里浜特別支援学校)(～12)
- 13日(土) 電腦下田黒船学校「サメの体を調べよう!」
(下田臨海実験センター)
- 18日(木) 学習公開・初等教育研修会(附属小学校)
(～19)
- 19日(金) 第45回知的障害児教育研究協議会
(附属大塚特別支援学校)
- 20日(土) 第7回視覚障害教育研究協議会
(附属視覚特別支援学校)
- 23日(火) 男女共同参画シンポジウム
- 25日(木) 前期日程試験(～26)
第13回総合学科研究大会
(附属坂戸高等学校)(～26)
- 26日(金) 聴覚障害早期教育公開研修会
(附属聴覚特別支援学校)
- 27日(土) 附属学校研究発表会
- 28日(日) 大塚地区E・G館 想い出会



3月

- 1日(月) 第3学期授業終了
附属駒場高等学校卒業式
- 6日(土) ビジネス科学研究科国際経営
プロフェッショナル専攻入学試験(～7)
- 12日(金) 後期日程試験
附属坂戸高等学校卒業式
- 13日(土) 電腦下田黒船学校「ワカメの秘密を調べよう!」
(下田臨海実験センター)
シンポジウム「ナノ、バイオ、環境科学の
基礎としての界面動電現象」
附属聴覚特別支援学校卒業式
- 15日(月) 附属視覚特別支援学校卒業式
- 17日(水) 理数学生応援プロジェクトシンポジウム
附属中学校卒業式
附属大塚特別支援学校卒業式
- 18日(木) 附属高等学校卒業式
附属桐が丘特別支援学校卒業式
- 20日(土) 人間学類35周年式典
附属小学校卒業式
- 23日(火) 春の進学説明会(～24)
附属駒場中学校卒業式
附属久里浜特別支援学校卒業式
- 25日(木) 卒業式 大学院学位記授与式
- 27日(土) 東京キャンパス大学院学位記授与式
- 29日(月) 下田臨海実験センター新研究棟竣工記念式典
- 31日(水) 退職時永年勤続者表彰式



Tsukuba
Communications

vol.6

平成22年1月発行

編集・発行: 筑波大学広報室

住所: 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話: 029-853-2063

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp



「産学リエゾン共同研究センター」
(ILC棟2004年竣工)

産学リエゾン共同研究センター (ILC) は、産学官のリエゾン活動の拠点として、2002年4月に設置されました。本センターは、共同研究やキャンパス・インキュベーションを推進することによって、本学の優れた研究成果を産業界へ移転し、社会貢献を果たしていくことを目的としています。



Tsukuba
Communications

